

世田谷版気候若者会議 実施報告書

令和8年3月

世田谷区

はじめに

〈世田谷版気候若者会議の開催にあたって〉

世田谷区では、「2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロ」にすることを目標に、様々な環境施策を推進しているところです。

この目標の達成に向け、2050年に社会の中心的存在となる若者世代をターゲットにして環境に関する意識や課題を把握するとともに、若い世代が気候変動問題を「自分ごと」として捉え、最終的には行政や社会に向けた提言づくりを行うことを目的として、「世田谷版気候若者会議」を開催しました。

〈気候市民会議とは〉

気候市民会議とは、無作為に選ばれた市民が複数回の会議に参加し、専門家の話を聞きながら市民同士での話し合いを重ね、気候変動に関する対策や取組を検討するものです。

無作為に参加者を選ぶことから、「地域の縮図」を作ったうえで議論を重ねることが可能であり、多様な市民の意見を反映した取組を検討できると考えられています。

目次

I 実施概要	1
1. 実施体制	1
2. 実施状況	1
3. 参加者の選出	2
II 各回の会議の概要と成果	4
1. 第1回会議	4
2. 第2回会議	11
3. 第3回会議	32
III 提言書の提出	40
参考①参加者アンケート	42
参考②提言書	52

I 実施概要

1. 実施体制

主催：世田谷区 環境政策課

運営事務局・ファシリテーター：株式会社ナレッジグリーン

2. 実施状況

世田谷版気候市民会議は、全 3 回開催しました。各回のテーマを以下に示します。

回	日程	プログラム要旨	講師
第 1 回	令和 7 年 11 月 16 日	マイアクションを考える	東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 江守 正多 氏
第 2 回	令和 7 年 12 月 7 日	「わたしたち」が気候変動を止めるためにはどうしたらいいか考える	株式会社ピリカ 朝緑 高太 氏
第 3 回	令和 8 年 1 月 25 日	わたしたちの未来のための気候変動対策を考える	国立研究開発法人 国立環境研究所 社会システム領域 地域計画研究室 室長 松橋啓介 氏

会場：世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう)

3. 参加者の選出

(1) 参加者募集

参加者募集は、以下の3点の方法により行いました。なお、会議 1 回当たり、クオカード 3,000 円の謝礼を提示しました。

募集方法	時期
無作為抽出による環境アンケートによる募集 (15歳~29歳の3,000人の方を無作為に抽出)	令和7年9月
区が独自で依頼したアンケートを経由しての募集	令和7年9月~10月
区の「ツクリテ」(地域活動募集のプラットフォーム)経由の募集	令和7年10月

【参考:世田谷版気候若者会議の案内】

世田谷版気候若者会議を開催します！

「世田谷版気候若者会議」は、参加した皆さんが、環境について考え、自由に話し合いながら、それぞれが自分ごととして、環境によい行動や、環境問題に対してどのようなことをしていったらよいかを考えることを目的としています。

全3回のご参加をお願いします。

▶開催日時・場所は？

	日にち	時間(予定)	場所
第1回	令和7年11月16日(日)	午後1時~ 4時30分	世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう) (世田谷区若林5-38-1) 東急世田谷線若林駅徒歩9分 小田急線梅ヶ丘駅徒歩12分
第2回	令和7年12月7日(日)		
第3回	令和8年1月25日(日)		

▶どんな人が来るの？

15歳から29歳の皆さん(50人程度)が参加予定です。
 専門的な知識がなくても、会議の中で環境に関する理解を深めていただく講演等を予定しているのです！


※日本語で意見交換ができる方、会場への交通費を自己負担できる方が応募条件になります。
 ※会議参加の決定のご連絡は10月頃を予定しています。

▶何を話すの？

【テーマ例】

	テーマ例
第1回	・自分自身ができる環境への取組み「マイアクション」を考える
第2回	・若者に環境に対して積極的に取り組んでもらうために必要なこと
第3回	・若者世代の視点で考える気候変動対策

テーマは検討中のため、今後変更になる場合があります。



【参考イメージ】「若者環境デー2024」の運営委員会のディスカッション

<お問い合わせ>

せたがやコール

世田谷区お問い合わせセンター
 電話 (03)5432-3333 ファクシミリ (03)5432-3100
 ご利用時間 午前8時~午後9時 年中無休

(2) 参加人数

(1)で示した方法により参加者募集を行った結果、第1回～第3回に以下の参加がありました。

回	参加者数	参加者の職業内訳
第1回	28人	高校生:5人 大学生・専門学校生:13人 会社員・自営業:8人 その他・不明:2人
第2回	21人	高校生:4人 大学生・専門学校生:9人 会社員・自営業:6人 パート:1人 その他・不明:1人
第3回	15人	高校生:6人 大学生:4人 会社員・自営業:5人

(3) グループの編成

参加者の年齢、職業、居住地域を考慮し、バランスを取ったうえでグループ構成を行い、各グループに1名のファシリテーター(株)ナレッジリーン)を配置しました。

その結果、A～Fの6グループの構成となり、各グループの最大人数は5人となりました。グループごとの各回の参加人数については、次の通りです。

回	A	B	C	D	E	F	計
第1回	5人	5人	4人	5人	4人	5人	28人
第2回	3人	4人	3人	3人	3人	5人	21人
第3回	1人	4人	3人	2人	1人	4人	15人

※第3回では、参加者人数の調整を行うため、AとCグループ、DとEグループが合同で議論を行いました。

Ⅱ 各回の会議の概要と成果

Ⅰ. 第Ⅰ回会議

(1) 会議の概要

日時	令和7年11月16日
場所	世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう)
参加者	28名
テーマ	マイアクションを考える

(2) 第Ⅰ回会議のプログラム

時間	内容
13:00~ (5分)	○開会・あいさつ
13:05 (40分)	○基調講演「気候変動問題を知る—わたしたちには何ができるか」 講師:東京大学 未来ビジョン研究センター 江守 正多 氏 ※質疑応答を含む
13:45~ (20分)	○インプットトーク 世田谷区 環境アンケート結果報告 環境にやさしいライフスタイル 世田谷区の現状と取組みについて
14:05~ (20分)	○参加者自己紹介・アイスブレイク(クイズ)
14:25~ (120分)	○グループ討議「マイアクションを考える」 <u>テーマ1:自分が行うマイアクションを考える</u> 1:個人で付箋出し 2:グループで共有し、似た意見をまとめる 3:模造紙にまとめ、メンバーがmyボードに貼り出し <u>テーマ2:周囲を巻き込んで行うマイアクションを考える</u> 1:個人で付箋出し 2:グループで共有する 3:グループごとに「タイトル」「誰と」「どこで」「最初の一步」「必要な支援」を踏まえたミニシート記入 4:with ボード貼り出し (全体共有) <u>テーマ3:個人マイアクション宣言づくり(今後、2週間くらいのマイアクション)</u> 1:マイアクションを記入 2:(できるグループのみ)グループマイアクションを記入
16:20~ (10分)	○閉会あいさつ・アンケート記入・QUOカード配布

(3) 基調講演

「気候変動問題を知る—わたしたちには何ができるか」

講師：東京大学 未来ビジョン研究センター 江守 正多 氏

【基調講演の要旨】

- ・気候変動（地球温暖化）の基本メカニズムについて
- ・温室効果ガス排出の現状と気温上昇について
- ・温暖化がもたらす影響（海面上昇、大雨・台風の激化 等）
- ・ティッピングポイント（不可逆的な転換点）について
- ・先進国が温室効果ガスを大量排出してきた一方、排出が少ない途上国・将来世代が最も深刻な影響を受ける「公平性の問題」について
- ・世界・日本の排出削減の現状
- ・30年後に“当たり前”になりうる変化
- ・必要な仕組みの転換について



東京大学 未来ビジョン研究センター
江守 正多 氏

【質疑応答のまとめ】

Q1. オゾン層破壊と地球温暖化の関係はどのようなものか。

(回答)

- ・オゾン破壊はフロンガスが原因だったが、モントリオール議定書によりフロンは世界的に規制され、オゾン層は回復傾向。
- ・フロン類は強力な温室効果ガスでもあり、温暖化対策としても削減が進められている。
- ・現在は“代替フロン”も温室効果があるため、ノンフロン技術の導入が進んでいる。

Q2. 北極は大きく温暖化するのに南極はあまり変化していないのはなぜか。

(回答)

- ・北極は海が多いが、南極は巨大な大陸でかつ厚い氷床のため、多少融けても地表が露出せず日射の吸収率が大きく変化しにくい。

Q3. CO₂を回収する技術はどこまで進んでいるか。

(回答)

- ・代表例として、「大気中の低濃度CO₂を直接集めて、高圧で地中深く注入し貯留する技術」などが挙げられる。
- ・技術的には可能だがコストが極めて高い。

Q4. 途上国は資金がないが、世界全体でどう支えるべきか。

(回答)

- ・歴史的に排出量が多い先進国が資金と技術を途上国へ提供することが考えられるが、必要額と先進国の拠出額にギャップがあり、今も国際交渉が続いている。

Q5. 世田谷区のような都会と地方でできるアクションの違いは何か。

(回答)

- ・地方は自家用車依存度が高いため、交通対策が重要である。
- ・地方は土地があり、再エネ発電(太陽光・風力)が導入しやすい。
- ・都会は屋根や駐車場など限られたスペースで再エネ導入がポイント。

Q6. 都会が地方の再エネ導入をお金で支援するのは有効か。

(回答)

- ・排出量を“地方で減らした分を都会にカウント”する仕組みは一般的ではないが、地方との連携・市民交流などをセットで進める事例(例:横浜市)もある。

(4) 成果

【マイアクション(個人)】

グループ	内容	頻度・期日	測定方法
A	欲しいものがある時に、似たものがないか、メルカリやセカスト、トレファクなどを見てから考える(新品の購入)	1、2ヶ月に1回(服や物を買う時)	季節ごとに買った服のうちいくつがリサイクルかカウントする
	家庭で植物や野菜を育てる	まずは1種類から始めて徐々に増やしていく。将来的にはコンポストをして肥料にしたい。	毎日世話をする。枯れさせない。
	マイボトルを持参する	毎日(大学、バイトの日)	写真を撮る
	電車やバスをあまり使わず、自転車で移動する	毎日(大学、バイトの日)	親からもらう交通費を計算して測定
	古着の購入	服を買い替える時/新しい服を購入したい時	購入履歴/自身のクローゼットの中身を写真で管理
B	安いものを大量に買すぎない	ずっと	レシートをためて振り返る
	マイボトルを持ち歩く	出かける度に	ペットボトルを買わない
	部屋で観葉植物を育て、緑を増やす	2025 年中に!	今の部屋と比べ、緑が増えたかどうか
	電気をつけっぱなしで寝ることをなくす	頻度:毎日/期日:次回まで	去年の使用量との比較
	ボランティア活動による、緑化率を上げること	若者中心に参加できるものにする	区内で1つでも参加する(第2回までに)
	自分はよく料理をするので、日常で捨ててしまう食材も含めて料理する	週1で生涯続けたい	まず普通に作って捨てた部分をグラム単位で測る/その後1ヶ月くらい続けた後で、最初と比べどのくらい捨てた部分が減ったかを見る
C	10分早く寝る	今日から毎日	睡眠アプリの利用
	エアコンは真冬まで使用しない/家の中では厚着等で対応する	12月中旬まで	エアコンアプリで確認
	スマホの使用時間・夜更かししている時間を減らし(1日1h以下)それに使う電力を削減	毎日(大学、バイトの日)	スマホ内のスクリーンタイム機能を使用
	普段使用しているもの(文房具、服、飲食店、…)について製造過程などの環境への負荷を調べる(買う機会があればそれを参考に)	次の会議まで	調べた成果品をつくる!
D	ビーチクリーンを開催する!	月1回	ゴミの量

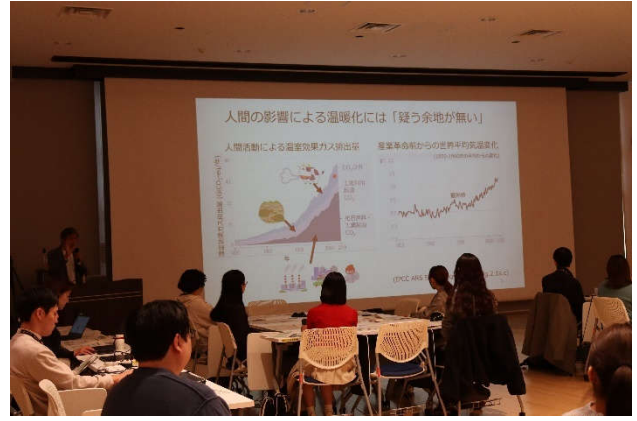
グループ	内容	頻度・期日	測定方法
	賞味期限が近い食べ物を買う	半月に1回くらい	1食以上
	電車までの交通機関の利用を減らして、自転車を利用する	1ヶ月、遊びに行く時	自転車に乗って記録する
E	フリマを行う	売るものを集める／申込みを行う	来年の夏
	長く使えるものを購入する	年内	数を数える
	リサイクルショップの利用	年内	数を数える
	マイ箸、マイボトルを持ち歩く	年内	数を数える
	ペーパーレス化	FAX・郵送を使う企業	半年～1年後
	必要なものだけ購入する	月に数回(本当に必要か考える)	買って実際に使ったか／繰り返し使っているか(2年以上)
	マイボトル	外出する時	
	ムダなものを買わない	毎日	
	使い切る	毎月	
	使わなくなったモノのリサイクル	月に1回	利用した回数
	学校の使わなくなった教材のリサイクル	学校の知り合いや同級生、後輩に必要だったら、自分の使わなくなった教材を使ってもらう	(在学中 ※グループ版の用紙を使用したため)
	フードロス削減のために、賞味期限が近い商品を購入	週に1回程度(特に昼、夜ご飯を購入する時)	どのくらいの頻度で行えたかを記録する
F	環境イベントへ参加する!(リサイクル+消費行動)	毎月する(月1～2回)／継続して行う(1～2年)／取組を意識する	手帳(メモやノート)などにチェックする!
	まずは自分の身の周りのできるSDGs行動を! -マイボトル、エコバッグ、世田谷区&都の環境問題の状況を知る -生活の無駄部分を見つめ直し、余白を作る	明日から実施／特に出社する平日は意識して行動してみる	家族などと共有し、一緒に取り組んでみる→自分がやっていることを共有、可視化する
	(特に夏)エアコンに頼り過ぎず、自分で自分の身を守るアクションをする -冷却スプレー、冷感布団、パジャマ、早寝早起きなど	来年の夏から開始してみる	家族などと共有し、一緒に取り組んでみる→自分がやっていることを共有、可視化する
	環境に配慮した商品を買う	値段を考慮しながら、無理のない頻度で／特に服を買う時にはしっかり吟味したい	その商品の環境ラベルをチェックする／企業情報をウェブサイトで調べる
F(続き)	地域のリサイクルスポットの場所・内容(どのようなものを提供できるか)を確	月1回	

グループ	内容	頻度・期日	測定方法
	認する／可能であれば持ち込んでみる		
	世田谷区の再生可能エネルギー生産率(他自治体での太陽光エネルギー？からの購入先)を調べる	1度	
	マイボトルをなるべく活用する →ペットボトルを利用する際にもリサイクルされるように	毎日	どのくらいペットボトルを使用したか
	イベントに参加してみる／正しい情報に意識して触れる	月に1回	どのくらいイベントに参加できたか

【周囲を巻き込んで行うマイアクション(Eグループのみ)】

グループ	内容	協働相手・最初の一步	期日
E	空調	学校	
	修学旅行、課外学習への参加	学校	
	リサイクルショップを利用する→リサイクル場所が増えてほしい	行政に伝える(大学、企業なども含む)／SNSで活動を共有する	数年以内に
	環境について考える機会を増やす→SNSを利用して		
	空調以外で温度調整(服、冷却用タオル)		
	食品のごみを減らす(りんごの皮を使って料理)		

【第1回世田谷版気候若者会議の様子】



2. 第2回会議

(1) 会議の概要

日時	令和7年12月7日
場所	世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう)
参加者	21名
テーマ	「わたしたち」が気候変動を止めるためにはどうしたらいいか考える

(2) 第2回会議のプログラム

時間	内容
13:00～ (5分)	○開会・あいさつ・ガイダンス
13:05～ (30分)	○基調講演「環境問題への取り組み方」 講師:株式会社ピリカ 朝緑 高太 氏 ※質疑応答を含む
13:35～ (10分)	○インプット・トーク ・環境アンケート(モニター)の結果報告 ・第1回世田谷版気候若者会議の振り返り
13:45～ (35分)	○グループ討議「わたしたち」が気候変動を止めるためにはどうしたらいいか考える」 <u>ステップ1:マイアクションから「気候アクションの担い手」となる要素を考える</u> 1:個人でマイアクションを振り返る 2:各自のマイアクション発表とインタビュー形式でディスカッション 3:付箋を「マイアクションの」周りに貼るかたちで模造紙にまとめ、「気候アクションの担い手」となる要素を考える
14:20～	休憩
14:25～ (40分)	<u>ステップ2:自分たちが「気候アクションの担い手」になるために必要なことを考える</u> 1:5年後くらいの自分が「環境のことを自分ごとにして動いている人」だったとしたら、どんなふうになりたいか、どのような役割を担いたいかをキーワードで付箋に書き出す 2:1で書いた付箋の内容を共有する 3:「なりたい姿」「必要な力」を考え、付箋に書き出す 4:「必要なこと」を考え、付箋に書き出す 5:模造紙の内容をまとめる／グルーピング化する
15:05～	休憩

15:10～ (50分)	<u>ステップ3: 支援策のアイデア出し</u> 1: ステップ2の模造紙を見ながら、「こんな支援策があったらいいな」というアイデアを、付箋に書き出す 2: 付箋を共有し、模造紙にまとめる／グルーピング化する 3: 2の中から、「これはぜひ提案したい」というものを1～2個選ぶ 4: アイデアシートの『交差性チェック』の表で、各観点について○／△／×をつける 5: 全体で共有する
16:00～ (25分)	○全体共有
16:25～ (5分)	○閉会・アンケート記入

(3) 基調講演

「環境問題への取り組み方」

講師: 株式会社ピリカ 朝緑 高太 氏

【基調講演の内容】

- ・株式会社ピリカが取り組む「ゴミの自然界流出問題」について
- ・観察・俯瞰の重要性について
 - (観察)
 - 研究でも活動でも「自分が得た一次データ」に価値がある
 - AIで調べられる時代でも、自分で見て集めたデータは誰にも否定されない
 - (俯瞰)
 - 海外では日本のように気軽にゴミ拾いができる環境ではない例も多い
- ・ピリカの具体的な取り組みについて
(ゴミ拾いアプリ、調査事業、企業との協働 等)



株式会社ピリカ 朝緑 高太 氏

【質疑応答のまとめ】

- ・Q1 文系でも環境分野で活躍できるのか。キャリアの入口が狭く感じる。
(回答)
- ・文系出身で環境分野の仕事に就いている人も多い。
- ・法律・国際業務など文系の強みを必要とする企業も多く、文系だから不利ということはない。
- ・Q2 ごみ拾いのマップに投稿する人は個人か、団体か。大通りに集中している理由はあるか。
(回答)
- ・個人の SNS 投稿の方が多いが、ボランティア団体・企業・自治体など、多様な主体が活動している。
- ・個人活動は見えにくいいため、MAPにより可視化している。
- ・スライドは一部地域であるが、実際には広く分布している。

・Q3 ごみが少ないエリアは治安が良いと考えられるか。防犯領域での活用可能性はあるか。

(回答)

・海外ではごみと治安に関する相関関係が報告されている。

・投稿がない場所は活動者が通っていないだけの可能性もあるが、防犯での活用の可能性は十分にある。

・Q4 環境分野に関心はあるが、環境団体に入るのはハードルが高く感じる。朝緑氏はどのように関心ごと仕事をつなげてきたのか。

(回答)

・私自身も、寄り道をしながら環境分野の仕事に就くこととなった。

・行動している人は相手にも伝わるため、深く心配せず、チャレンジすることが必要ではないか。

(4) 成果

ステップ1:マイアクションから「気候アクションの担い手」となる要素を考える

〈第1回の振り返り〉

内容	結果	今後の工夫点
家庭で植物や野菜を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・買いに行くことができませんでした。 ・植物を植えるための容器をこだわろうとした結果です。 ・親のものをかわりに世話したが、続きそうにない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふだん触れるところで育てる。 ・買いに行くのではなく、オンラインで購入する。
電車やバスをあまり使わず、自転車で移動する	<ul style="list-style-type: none"> ・移動の時、すごく寒い。汗をかいて余計に寒い。 ・自転車が壊れかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車を点検する。 ・冷えない工夫。
古着の購入	<ul style="list-style-type: none"> ・古着をメインで購入することはできた。 ・中身を写真で撮ることはできず、似たような服が多くありそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・似たような服の購入を減らすことで、輸送や製造で使用されるエネルギーを減らす。 ・素材への配慮。
10分早く寝る	<ul style="list-style-type: none"> ・日によるが、大まかには意識的に実行できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜は入眠まで早めから照明を暗くして過ごすようにしていたので、環境のためにもこの取り組みを今後もより意識していきたい。(冷暖房よりも)
エアコンは真冬まで使用しない／家の中では厚着等で対応する	<ul style="list-style-type: none"> ・できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングなどの共有スペースでも波及させたい。
普段使用しているもの(文房具、服、飲食店、…)について製造過程などの環境への負荷を調べる(買う機会があればそれを参考に)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業のサイト等を調べて参考にはしたが、成果品は作れなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の際に、逐一商品についてメモしておけると良い。
ビーチクリーンを開催する!	<ul style="list-style-type: none"> ・開催はできた。 ・他団体と日程が重なり、ゴミが少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加人数を増やす。 ・協賛等を募る。
長く使えるものを購入する	<ul style="list-style-type: none"> ・行動できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洋服などは、買う前に考える。
リサイクルショップの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・行動できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時期にあったものを売る。
マイボトル	<ul style="list-style-type: none"> ・嗜好品はいっぱいあるけど、生鮮食品は使えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫のものを把握する。
フードロス削減のために、賞味期限が近い商品を購入	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーに行ったときに、賞味期限の近いお弁当を購入した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニやスーパーに行った際は、賞味期限が近くなっている商品に意識的に目を向ける。 ・購入済みの商品でも、賞味期限切れになって食べられなくなった食材があった。全て無駄なく食べられるか予測して購入すべき。

内容	結果	今後の工夫点
環境に配慮した商品を買う	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮よりも値段やデザインを優先して選ぶことが多かった。食べ物などは、賞味期限が近いものを選ぶこともあった。 ・まずはウェブサイトで企業がどのような取り組みを行っているか調べてみる。買う前に環境ラベルをチェックする。 	—
地域のリサイクルスポットの場所・内容(どのようなものを提供できるか)を確認する／可能であれば持ち込んでみる	<ul style="list-style-type: none"> ・確認できたが、家から近いとは言えなかった。 	—
世田谷区の再生可能エネルギー生産率(他自治体での太陽光エネルギー？からの購入先)を調べる	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ忘れた。 	—

ステップ2:自分たちが「気候アクションの担い手」になるために必要なことを考える
 〈なりたい姿・必要な力〉

Aグループ(付箋)
行動するメリットを知ってもらう
何気ない行動が気候変動の対策につながっていることを周囲も気付けるようにしたい
環境を考えた行動は実はハードルが低いことを伝えられるようにしたい
子どもたちに分かりやすく伝える力
自分の言動がどのように環境に影響するのか、正しく調べたり、発信できるようになりたい
SNSで発信
気を引くデザイン
正しく、分かりやすく伝える能力
食べ物大切さを伝える力
楽しいとか面倒くさいじゃなくてポジティブな気持ちをもってもらう
本当に必要なものだけしか買わない人になりたい
自己管理
本当に必要なものを見極める力
日常生活で自然環境に良い選択ができる人になりたい
環境に良いものを購入
環境に良いものとは何なのか知る必要がある
環境のイベントに参加するのではなく、企画する側に行く
イベント等の企画力
おもしろそうと思わせる企画を作る発想力
開催するメリットをアピールする力
農家さんとの交渉力
まず自分から始める力
保育園で子どもと畑を作り、食べ物大切さや大変さを教えられる保育士になりたい
野菜を育てるスキル
周りの人を巻き込んで環境問題に取り組む
問題にぶつかった時、どう対応できるかという判断力
どんな問題があるか考える力

B グループ(付箋)
ミニマリストになる!
環境博士になる
環境のイベントを広める人
コンポストを利用して生ごみゼロ、プラ系のごみのみ処理するように
断熱を意識した家をつくりたい
レジ袋の値段を高めにする自治体を増やしていく
環境勉強会の開催、フロー作成
ポスターとかイベントについての情報を広めてほしい
環境住宅の増加、建て替え推進
レジ袋は1袋 50 円か 100 円にする
新しい物を売るときに、お一人様1つまでなどのルールを作る
各家庭にルンバを支給し、ルンバで部屋を掃除できるようにする
給水スポットを増やしてほしい

C グループ(付箋)
共有スペースにおける電力消費量、電気代を可視化する
消費量のシミュレーションを普及させる
購入した商品とその環境負荷が自動的に可視化されるようなシステムをつくる・広める←電子決済が更に導入されているはず。家計と結びつけられれば
コンポストをしている
災害時にも役立つような自然発電を取り入れて生活している
自給自足的な生活が当たり前になっており、自分の体と家1つで何でも完結する
長く使え、長く愛せる物を買う習慣が定着し、買い物の選択の質が上がっている。思い切った選択を自信を持って行えるようになっている

D グループ (付箋)
環境事業 パタゴニアのような環境事業における成功
地球を大切に感じられるような空間づくり
環境問題解決で生活していく、稼ぐ、ビジネスとして成立してほしい
環境団体の参加ハードルが下がっていてほしい コミュニティが形成
特に夏、太陽の反射光がまぶしいから、住宅街とかの道路やタイルなどを考えてほしい
正しい知識を持つ
興味ある異常気象と環境教育についての知識をもっと活用
教育事業
環境に興味がある人以外も参加しやすいイベント
所属団体の CSR、ESG
投票する 選挙政策への注目
投票率の上昇 オンライン投票の仕組みとか？
インフラを通して発電する
エシカル消費を日常的にできている
移動手段を考える
大量に物を買すぎない

E グループ (付箋)
環境問題、アクションについて正しい情報を収集する
5年後、自炊を行う際に食材をムダにしない料理方法を提案・実行→SNS や家族に教えたり
食べ物をムダにしない! (使わない物は冷凍するとか…)
5年後、自分の食べ物の消費量を理解して、食品を購入
5年後、流行りの服を買う際、長く着れるかどうか先を見越した購入ができる

Fグループ(付箋)
環境教育 ボランティアなどでワークショップや講義の運営を行いたい 子どもに限らず、環境に詳しく伝えられる人材になりたい
NPO 団体 清掃・おまつりなどの参加→人脈の構築→地域の子どもたちなどに話す機会など! おまつりのごみの分別大事!子どもに楽しく教える良い機会になるのでは
教科横断的な学習で、環境を絡めた教材を活用する
絵本を描く
”家計”と”環境”に優しい生活を心がける
環境に優しいエアコンを安く売りたい
バス利用を身近にするために働く(路線を増やす、運賃を下げる、子育て世帯へのチケット配布)
行政の人になって交通渋滞をなくすために働く(道幅を拡げる、一方通行を調節する)
子どもと地域の環境イベント(学び、ごみ関係、人との交流)に参加する
自然と環境保全をからめた活動
地域に寄り添った環境保護活動
企業の環境対策強化促進 資格など取っておきたい(防災、環境保護)

<必要なこと>

A グループ(付箋)
正しい知識の取得
情報収集をする
人に上手に伝える能力
多くの人の目に止まるようなデザインやマーケティングの研究
学校で環境について話をする
伝える場を作る
正しい知識や情報を習得するための講義
分かりやすい環境に関するサイトの作成
環境に優しい事業や製品製作の推進
ファクトチェックの推進
気軽に参加しやすい場所の提供(駅から近いなど)

B グループ(付箋)
交友関係を広げる
自分の環境についての知識を増やす
プレゼンをうまくできる人になる
環境についての勉強、イベントへの参加
建築について勉強する 材料や施工方法など
常にマイバッグやマイボトルを持ち歩く
ポスターを増やしたり、紹介する場を設ける
自分の趣味とは違う趣味の友だちを作る
ミニマリストの友だちやインフルエンサーのまねをする
役所の仲間たちと環境に対してどれほど意識しているか話し合う。その中で改善すべき点は共有し合う。
イベントに参加した景品などに費用を使う
毎週新しい物を売らないでほしい
イベント参加時に公休になる制度
補助金の新設
生分解性の袋のみにする
レジ袋の値段は、国・その自治体との合意をうまく得た上で上げるようにする
友だちやネットに流されず、自分に必要な物だけを買うようにする

C グループ(付箋)
「見える化」システムの利用者のニーズを把握
賛同・協力する仲間づくり
アプリの周知 家族や友人にすすめられる 大学や社内でアプリを利用させる
知識と問題意識を持ち続ける、アップデートしていく
公私共に生活の中での移動を減らす
消費の可視化 学内や社内に電気代を周知させるポスターやメール
環境への意識向上、金銭的・技術的支援
供給の可視化 自転車発電など健康と組み合わせて、自分の供給量への貢献を可視化させる 大学や区の施設に設置し、いつでも利用できるようにする
大企業が私たちの意識(認識)よりも先にどんどんエコなサービスを提供していく
デジタルデバイドをなくす
あらゆる側面での IT 化促進
格差解消
国、自治体によるシステムの統一化
見える化システムの広報
製品情報の提供(企業)
経済的⇔時間的余裕の確保
地域共同体のつながりを強める
スペース・環境の広さの確保
利潤ばかりを追求しない

D グループ(付箋)
自分たちの活動が可視化できるように
学んだことを発信する(SNS、地域イベントなどで)
環境イベントを調べる
情報収集
情報の収集、発信 最新かつ正確な
企業・専門家とのつながり
企業や地域は環境活動についてもっとアピールする
環境教育
一般市民も環境への影響を考えられるように教育に力を入れる
団体・企業・活動などの一覧表
学生のうちから参加できる場の提供
世田谷区の環境アンバサダー的な資格?バッジ?
環境に優しい製品の拡充 当たり前にする
事業への行政による継続的な支援(最後まで)
世田谷区から認証マークをつくる(環境に優しい取り組みをしている企業が分かりやすくなるように)
発表する場
音が出るピアノの階段のように振動で発電して一種の観光名所をつくる

E グループ(付箋)
ごみ拾いや環境についての講義が聴けるイベント、ボランティアの参加→環境に意識が向く、正しい情報を得やすい
情報リテラシーを高める
友だちと情報を共有する(良いモノ、コトがあった時に「これ良くない?」と送り合う感覚)
学校や企業で消費期限が近い食品をレストランやお店から取り寄せて売店で売ってほしい
ラベルレスのボトルのように、企業・行政の取組を環境について知るきっかけにする
食べ物が毎日どのくらい廃棄されているか、数値が SNS、インスタグラムでチェックできるようにしてほしい
入社する際に私たちの会社は環境のためにどのようなことをしているのか説明するシステムを導入する
消費期限が短い食品にシールを貼って、それを集めると景品がもらえる

Fグループ(付箋)
環境に関する知識を深める
英語ができれば外国の人とも話せる
文章力 表現力 コミュカ
教材の開発 授業実践事例の共有・発信
絵本の作り方、販売方法を調べる
防災・環境系の資格
人脈・信頼
講演会の実施
学校:課外活動のサポート、参加呼びかけ、イベントの紹介(ポスター等)
イベント一覧が掲示板・SNSに公開される
1日乗車券を発信、イベントを行う
環境負荷の少ない製品は税金下げる
交通渋滞を把握して、対策・実行!
バス会社と連携して、バスの利用者を増やす取組
企業や行政によるポイントバック等キャンペーン実施
イベントの主催

ステップ3: 支援策のアイデア出し

A グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	Welcome Place
分野 (該当するものに○)	<input type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input checked="" type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 企業・お店 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 ・環境問題について、実物を交えてより発信したい人

2. 支援策の内容

(1) どんな支援・しくみか(具体的なイメージ)	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが参加しやすい場所の提供 ・駅から立ち寄りやすい ・展示だけでなく、クイズ形式にするなど
(2) この支援で、どんな行動変容を応援したいか	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への興味関心が薄くとも、立ち寄ったことで考えるきっかけになる。
(3) 期待される効果(環境面+それ以外のよいこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した行動の増加 ・より多くの人に伝えるための工夫 ・環境イベントの開催の増加

B グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	水と氷で地球を冷やそう
分野 (該当するものに○)	<input type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input checked="" type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 ・外で働いている人 ・経済的な理由で水を買えない人

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか(具体的なイメージ)	・区の施設に導入する ・アプリで回数を決めるなどして、特定の人が沢山利用しないようにする。
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・マイボトルを増やす ・熱中症対策として
(3)期待される効果(環境面+それ以外のよいこと)	・ゴミの減少 ・熱中症予防の啓発 ・経済的支援 ・情報の掲示 ・自動販売機の利用を減らす

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか		×	少しずつ広める
時間の負担は大きすぎないか(部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		
移動しやすさ・バリアフリーはどうか	○		
日本語が得意でない人にもわかりやすいか	○		
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか	◎		
その他、届きにくそうな若者はいないか		△	

C グループ①

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	電子決済と環境負荷を組み合わせたアプリ
分野 (該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input checked="" type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input checked="" type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 ・節約をしたい全ての人

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか (具体的なイメージ)	・消費した金額と商品の環境負荷を可視化させる ・評価に応じてポイント還元
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・アンケート調査で上位を占める経済意識と環境を組み合わせ、意識改革をする
(3)期待される効果 (環境面+それ以外のよいこと)	・節約と環境への当事者意識が上がる

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか	○		
時間の負担は大きすぎないか (部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		
移動しやすさ・バリアフリーはどうか	○		
日本語が得意でない人にもわかりやすいか	○		
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか	○		
その他、届きにくそうな若者はいないか	○		

C グループ②

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	(ふるさと)環境納税
分野 (該当するものに○)	<input type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 学び・イベント <input checked="" type="checkbox"/> その他(経済)
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 企業・お店 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input checked="" type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 ・環境問題解決に実際に取り組んでいる人 ・環境への問題意識はあるが、一歩踏み出せない人

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか (具体的なイメージ)	・環境問題に関する行動(環境への負担が見える化するシステムづくり)をしている団体(地域を問わず)へ行った投資/ 寄付の額に応じて世田谷区へ支払う税金が控除される。実質的に、世田谷区→団体へ税金が移動する。
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・環境問題に取り組む活動にお金が回る。 ・環境への興味・関心を税制という身近で考えざるを得ないものから生み出すことが出来る。
(3)期待される効果 (環境面+それ以外のよいこと)	・税制をきっかけとして、環境問題に取り組む団体に、自発的に投資を行えるようになる人の増加。 ・税制への区民の納得感が上がる。

D グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	環境活動支援のためのまとめサイトづくり
分野 (該当するものに○)	<input type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input checked="" type="checkbox"/> 学び・イベント <input checked="" type="checkbox"/> その他(情報提供)
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 環境にちょっとでも興味がある人

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか (具体的なイメージ)	環境団体、企業(イメージアップにも)、活動などの情報を一括で見られるポータルサイト ・活動への参加 興味→活動への壁をなくす ・情報の信頼性 気軽に参加できる情報の精査 ・種類 様々な需要にこたえる すき間にも ・コミュニティの形成 新しい出会い
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	環境への興味を後押しする(のちの担い手に)
(3)期待される効果 (環境面+それ以外のよいこと)	・“活動してみようかな”につなげ、参加人数を増やす ・コミュニティの形成 ・地域の活性化

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか		△	・この事業の維持
時間の負担は大きすぎないか (部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		・種類
移動しやすさ・バリアフリーはどうか	○		・オンライン 種類が増えれば
日本語が得意でない人にもわかりやすいか		△	・多言語対応
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか	○		・オンライン
その他、届きにくそうな若者はいないか			・興味がない人

4. メモ・追加のアイデア

・学生による運営 ・参加者による発信 ・学生以外にも、社会人など

E グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	自分にリターン 企業、地区別環境保全大会 (自分にも環境にもリターン、企業、地区対抗)
分野 (該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> モノの選び方 <input checked="" type="checkbox"/> 食生活 <input checked="" type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input checked="" type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input checked="" type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 環境問題にまだ関心のない学生

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか(具体的なイメージ)	・期間を決めて、地区、企業ごとに応募できるようにする仕組み ・個人にも企業にも景品、評価につながる(削減の部門ごとに%で評価) ・スポンサーをつける、省エネ、ごみ、ランク分け
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・今は関心が薄い分野に、メリット(例:助成金、産品)を提示することで、参加、知るきっかけを作る。 ・企業、地区などの評価(会議への参加率など)を環境問題改善につなげる
(3)期待される効果(環境面+それ以外のよいこと)	・環境問題に対して、関心を持つきっかけとなり、行動にうつしてもらう。 ・取組を外部へPRできる。 ・企業、地区の評価が上がる ・ごみの量減→処理の費用、CO2 減

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか		△	国へ負担をお願いする(Jクレジット)。スポンサーをつける。
時間の負担は大きすぎないか(部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		
移動しやすさ・バリアフリーはどうか	○		
日本語が得意でない人にもわかりやすいか	○		
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか		△	インプット、グループワーク等、色々な形で開催
その他、届きにくそうな若者はいないか	○		

F グループ

1. 支援策の基本情報

支援策アイデア名	コラボで環境意識を高めよう
分野 (該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> モノの選び方 <input type="checkbox"/> 食生活 <input type="checkbox"/> 住居 <input type="checkbox"/> 移動 <input checked="" type="checkbox"/> 学び・イベント <input type="checkbox"/> その他()
主な主体(該当するものに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 世田谷区 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 企業・お店 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> 若者自身→個人
この支援策で特に応援したい若者像	例:アルバイトで忙しい高校生/一人暮らしの大学生 など自由に記入 環境問題に興味のない学生

2. 支援策の内容

(1)どんな支援・しくみか(具体的なイメージ)	・環境とキャラクターのコラボ広告(バスや電車など)で環境問題への認知率UP! ・バス乗車回数で特典(地域で使える商品券やキャラクターグッズ) ・環境活動でポイント制
(2)この支援で、どんな行動変容を応援したいか	・環境イベントの参加得点をキャラクターコラボグッズにする(参加をうながす) 水筒 エコバッグ エコカイロ センズ 鉢植え 保存食・非常食 バス定期入れ PASMO ・環境に取り組み第1歩をあとおし
(3)期待される効果(環境面+それ以外のよいこと)	・環境を意識した生活が自然になる

3. 交差性チェック(多様な若者への届きやすさ)

観 点	○	△/×	メモ(どんな工夫が必要?)
お金の負担は大きすぎないか		△	イベントの回数やエリアを増やす
時間の負担は大きすぎないか (部活・バイト・家の手伝い等との両立)	○		
移動しやすさ・バリアフリーはどうか		?	
日本語が得意でない人にもわかりやすいか		△	海外での人気の作品等をコラボに含める
人が多い場や対面が苦手な人にも参加の余地があるか		×	映像を見てもらう形式?見た後にオンラインショップ入場可能
その他、届きにくそうな若者はいないか		△	

【第2回世田谷版気候若者会議の様子】



3. 第3回会議

(1) 会議の概要

日時	令和8年1月25日
場所	世田谷区立教育総合センター 研修室(たいよう)
参加者	15名
テーマ	わたしたちの未来のための気候変動対策を考える

(2) 第3回会議のプログラム

時間	内容
13:00~ (5分)	○開会・あいさつ・ガイダンス
13:05~ (25分)	○グループ討議「わたしたちの未来のための気候変動対策を考える」 <u>ステップ1:第2回振り返り(アイデアの深掘り)</u> ・各グループで出したアイデア(第2回「支援策」)について、次の項目をまとめる ①どうなっていると良いか?(=望ましい状態) ②今、障害となっていること:時間/費用/情報/移動等 ③障害を下げる工夫(必要条件・取組など)
13:30~ (40分)	○基調講演「個人・行動と地域・社会の転換」 講師:国立研究開発法人 国立環境研究所 松橋 啓介 氏 ※質疑応答を含む
14:10~	休憩(10分)
14:20~ (60分)	<u>ステップ2:若者世代の視点から気候変動対策を考える</u> 1.個人で、地球温暖化対策の上で効果が大きいと思われる取組を選び、ワークシートに書かれている項目を書く。 2.ワークシートに書いた内容を発表し合って、グループとして取り上げる取組を2つ程度選出する。 3.選出した取組について、グループで話し合いながら模造紙に各項目を記入していく。
15:20~	休憩(10分)
15:30~ (45分)	○全体共有・世田谷区長コメント
16:15~ (15分)	○閉会・全体写真・アンケート記入

(3) 基調講演

「個人・行動と地域・社会の転換」

国立研究開発法人 国立環境研究所 松橋 啓介 氏

【基調講演の内容】

- ・個人の行動から社会システムの転換について
- ・公共交通が使いやすいまち、徒歩・自転車が安全なまちなど、制度づくりの必要性について
- ・交通とまちづくりに関する調査結果について
- ・市民参加の新しい形である「ミニパブリック（気候市民会議）」について（つくば市の事例）
- ・提案を社会に広げる方法について
→「北風と太陽」のように、無理に努力を求めるのではなく、自然と行動が変わる仕組み
- ・個人の生活、地域、しくみの転換について



国立研究開発法人 国立環境研究所
松橋 啓介 氏

【質疑応答のまとめ】

- ・Q1 環境負荷の軽減に関する行動のインセンティブとして金銭的な得が紹介されていたが、金銭的なメリット以外にも、何か行動を促進するようなものはあるか。
(回答)
 - ・人から褒められる・認められることも大きな動機づけになる。
 - ・ポイント付与など、少額でも「応援されている」という感覚が行動を後押しする。心理的な要素も重要。
- ・Q2 「罰則（損）」と「インセンティブ（得）」はどちらが効果的か。「罰則（損）」が設けられている方が、行動を変えやすいのではないか。
(回答)
 - ・罰則のみでは社会が窮屈になるため、最も重要な部分での罰則が必要。
 - ・基本的に守ってほしい行動は罰則なしでも「損にならない仕組み」を設け、さらに緩い誘導でもよい部分は、ポイントなど「得」が有効ではないか。
- ・Q3 世田谷区のように若者・高齢者が共に住む地域を考えるうえで、次のディスカッションでは、どのようなことに着目すべきか。
(回答)
 - ・若者だけで政策を議論すると高齢者からの反対を受ける可能性があるため、政策を考えるうえで、高齢者の視点からのチェックを考えることが必要。

(4) 成果

A+C グループ

提言タイトル	サーキュラーエコノミー	
何をしてほしい？ (制度・仕組みの提案)	修理して繰り返し長く使える製品を製造する企業を優遇する(税金など)	誰に？ <input type="checkbox"/> 行政 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
なぜ必要？ (背景・根拠)	長持ちさせないと、大量消費・生産が止まらず、加速する →ごみの削減へ ・家電は「買い替えた方が安い」状況で、修理文化が衰退しているため	
どうやって実現する？ (具体の仕組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・国家資格認定の法を整備する ・技術者の環境整備(企業とのマッチング、資格の認定と優遇、etc.) ・高いサステナビリティを実現する製品を扱う企業を優遇する(法、税金等の面でサポート) ・製品を5年で買い替えるのではなく、10年契約などで長く使う仕組みをつくる。 	
期待される効果 (気候変動対策+共便益)	<ul style="list-style-type: none"> 資源の取り合いをしない 持続可能で循環型の社会 ・修理する文化の再興 	

B グループ

<p>提言タイトル</p>	<p>増やすと減らすを「住宅」で実現する提言 ・増やす:再生可能エネルギー、減らす:CO₂</p>	
<p>何をしてほしい? (制度・仕組みの提案)</p>	<p>太陽光パネル設置の補助</p>	<p>誰に? <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> その他(具体的に)</p>
	<p>断熱性能を上げるための補助</p>	<p>誰に? <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> その他(具体的に)</p>
<p>なぜ必要? (背景・根拠)</p>	<p>空き家問題の増加 断熱性を上げることによってエネルギー効率を上げ、建物を長く使えるようにする 断熱性を高めることでエネルギー効率を向上させ、CO₂削減にもつなげるため。</p>	
<p>どうやって実現する? (具体の仕組み)</p>	<p>太陽光パネルの設置が今まで難しかった場所を検討する (例えば、ペロブスカイト太陽電池を使えば、建物の窓や外壁などいままで設置が難しかった場所にも、太陽光発電の設置が期待できる) ・既存住宅の断熱改修の補助を行う</p>	
<p>期待される効果 (気候変動対策+共便益)</p>	<p>・エネルギー効率の向上と CO₂削減 ・断熱により、冷え性の改善など、健康状態の向上</p>	

D+E グループ

提言タイトル	世田谷区エコアンバサダーU15	
何をしてほしい？ (制度・仕組みの提案)	学校が企業と連携し、環境問題に関するプロジェクト、イベントを開催する	誰に？ <input type="checkbox"/> 行政 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
	学生にインパクトのある環境教育の実施	誰に？ <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
	「世田谷区エコアンバサダーU15」	誰に？ <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
なぜ必要？ (背景・根拠)	世田谷区より、環境教育に携わる団体、企業に補助金を出してもらう ・従来とは違うインパクトのある環境教育を実現するため。	
どうやって実現する？ (具体の仕組み)	・学校でインパクトのある環境教育を企業と連携してもらう。 ・第三者の専門家に小中学校へ課外学習の授業などを実施してもらい、授業の終了後も生徒が自由に参加できる環境活動プロジェクト(ないし環境ボランティア)を設けておき、質の高い環境教育を実現する。	
期待される効果 (気候変動対策+共便益)	・環境意識の向上	

D+E グループ

提言タイトル	エコpay	
何をしてほしい？ (制度・仕組みの提案)	せたpayに連動できる仕組みにする	誰に？ <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
	せたpayを使えるようにしてもらう	誰に？ <input type="checkbox"/> 行政 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
なぜ必要？ (背景・根拠)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で環境へ配慮する行動をとれば、インパクトが大きいから。 (例えば、世田谷区民 92 万人が 1 日 1 本ストローを断れば 92 万本削減できる) 	
どうやって実現する？ (具体の仕組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント参加、サステナブルグッズの購入、ストロー断る・エコバッグの使用でポイントが貯まる ・環境団体・NPO の情報を一括で見られるポータルサイトを設立し、イベント、ボランティア募集などの情報を掲載する。 ・環境に良い行動(ストロー断り、リユース容器利用など)を取った場合に、ポイント付与する。 ・せたがや Pay とも連携し、ポイントを相互で交換できるようにする。 	
期待される効果 (気候変動対策 + 共便益)	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックごみの削減 ・環境に関するボランティアの活性化 	

F グループ

<p>提言タイトル</p>	<p>食・教育・ゼロエミッション住宅の提言</p>	
<p>何をしてほしい？ (制度・仕組みの提案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼロエミッション建築 ・屋上の貸し出し ・菜園(屋上) 	<p>誰に？</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者募集(イベント・体験) ・植樹 	<p>誰に？</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
	<p>収益の配分制度(海・山の植藻・植樹)</p>	<p>誰に？</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 学校・教育機関 <input type="checkbox"/> 地域団体 <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
<p>なぜ必要？ (背景・根拠)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域との連携 ・「食料(肉・野菜など)」を生産する過程でも、CO₂が排出されるため、まずは世田谷区でとれた野菜などを食べる。そうすることで、環境にやさしい「食」について考えるきっかけとする。 	
<p>どうやって実現する？ (具体の仕組み)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制度設計・企業の協力募集 ・アプリでPR ・キャラクターの利用(世田谷区にゆかりのある) ・区民にポイント加算(せたpay利用) ・空き家の屋上を活用して、貸し出し農場や野菜を作るスペースを設ける。(食・教育・空き家活用の例) ・若者にも届く形で発信する。 	
<p>期待される効果 (気候変動対策+共便益)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済の活性化 ・CO₂削減 ・環境行動の「見える化」 ・地域活性化 	

【第3回世田谷版気候若者会議の様子】



Ⅲ 提言書の提出

(1) 提言書提出の概要

第1回～第3回会議での検討結果を踏まえ、世田谷区の気候変動対策や、若者の行動を後押しする仕組みづくりを進めるための「提言書」を作成しました。

「提言書」については、世田谷版気候若者会議の参加者の代表者とともに、世田谷区長宛に提出を行いました。

【提言書提出の概要】

日時	令和8年3月25日
場所	世田谷区役所
参加者(提出の代表者)	1名

(2) 提言の内容

提言の内容については、次の通りです。

A マイアクションのために必要な支援の提言

- 提言1 Welcome Place(誰もが立ち寄れる環境の学び・出会いの場)
- 提言2 水と氷で地球を冷やそう(給水・冷却支援でマイボトルを増やす)
- 提言3 電子決済と環境負荷を組み合わせたアプリ(消費と環境負荷の見える化+ポイント還元)
- 提言4 (ふるさと)環境納税(寄付・投資に応じた税控除で活動資金を循環させる)
- 提言5 環境活動支援のためのまとめサイトづくり(信頼できる情報の一括提供)
- 提言6 自分にリターン:企業・地区別 環境保全大会(メリット提示で参加のきっかけをつくる)
- 提言7 コラボで環境意識を高めよう(キャラクター等との連携で認知→参加へ)

B 気候変動対策への提言

- 提言8 サーキュラーエコノミー:修理・長期利用が当たり前となる仕組み
- 提言9 増やすと減らすを住宅で実現:再エネ導入+断熱改修
- 提言10 世田谷区エコアンバサダーUI5:担い手を育てる環境教育の刷新
- 提言11 エコPay(せたがや Pay 連携):日常のエコ行動を「応援」するポイント設計
- 提言12 食・教育・ゼロエミッション住宅:屋上菜園×空き家活用×地域連携

【提言書提出の様子】

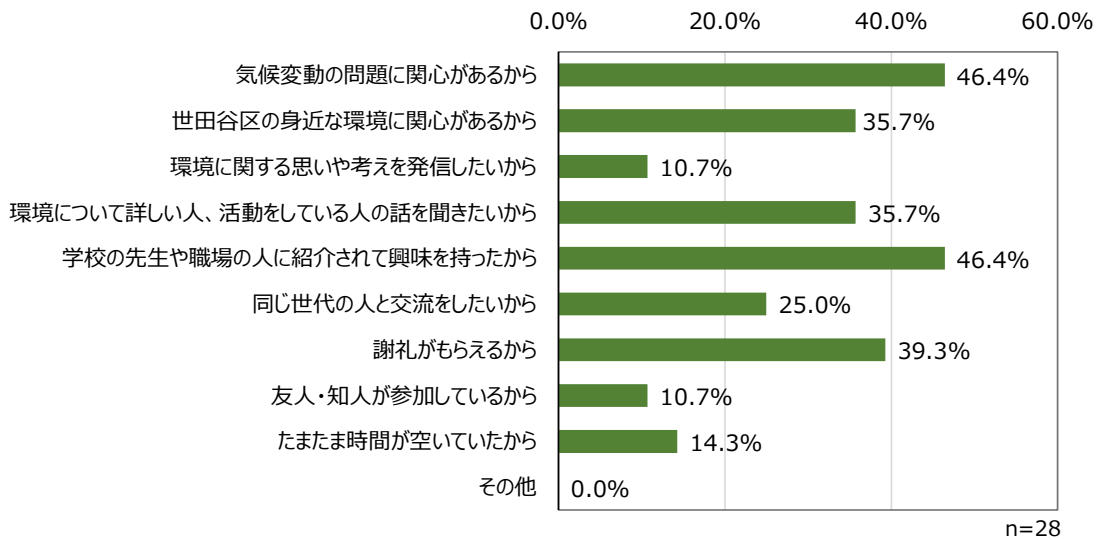


参考①参加者アンケート

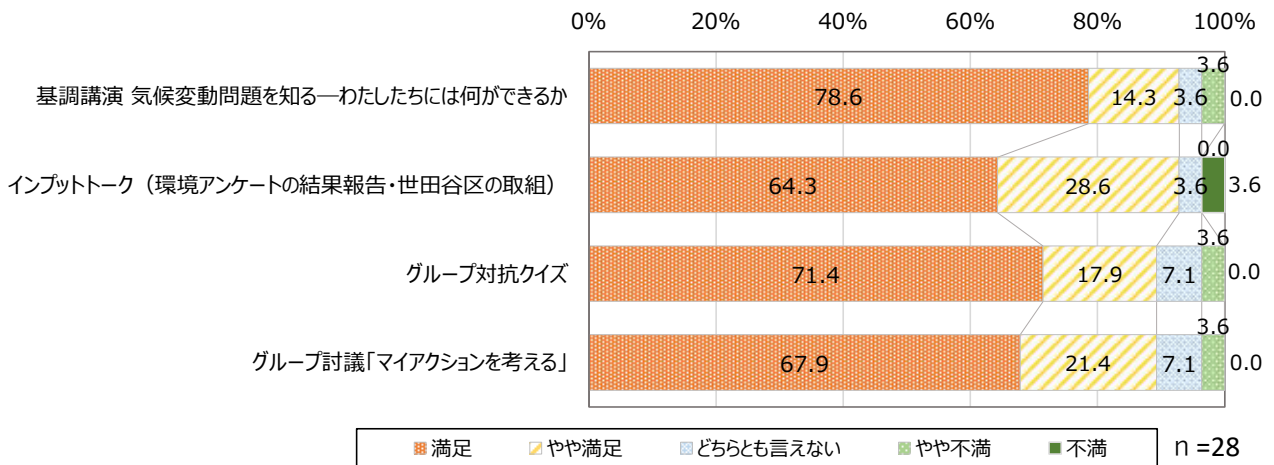
第1回 世田谷版気候若者会議 参加者アンケート〈結果〉

参加者数：28人
 (内訳)
 高校生：5人
 大学生・専門学校生：13人
 会社員・自営業：8人
 その他・不明：2人

Q1 世田谷版気候若者会議に参加された理由を教えてください。(複数回答可)



Q2 第1回 世田谷版気候若者会議の満足度を教えてください。



Q 3 今後、環境に関するイベントや取組の参加者を拡大するために、あなたが特に有効だと思うことをお書きください。

○記述回答

- ・TikTokなどの若者中心とした SNS での広告
- ・特典を増やす
- ・特典
- ・SNS での広報
- ・メール送信
- ・年代を絞り、参加層を把握しやすくすること
- ・学校施設や大学での授業で開催すること。
- ・SNS などを使って多くの人に知ってもらう
- ・SNS での情報発信、今回のような謝礼をつけた参加者募集
- ・SNS を使った情報発信
- ・特典を増やす
- ・圧倒的な認知不足が根底にあると思うので、SNS やあらゆるメディアを活用した、活動の取り組み周知。今回葉書が自宅に届いたので興味をもち参加したが、駅広告や色々な形で周知すると、興味を持つ社会人なども多いと思う。
- ・お祭りなど地域のイベントに自然由来の手作りワークショップを取り込む
- ・短い時間でのイベント、謝礼。
- ・チラシを家や学校で配る
- ・まず、十分な広報活動が行われるとよいと思う。それに、どんなイベントなのかも発信すると、参加のハードルは下がると思う。
- ・友人を誘ったり、呼びかけをする
- ・開催場所や頻度を増やす
- ・ボランティア、イベント、リサイクル
- ・東大の先生が来ると宣伝したらもっと参加したと思った
- ・参加することに対して小さくても良いので報酬を付ける。
- ・アクション、ボランティア
- ・学校への出張講義から、イベント参加者の増加に繋げる
- ・インターネットでの気を引くサムネイルなどの広報を工夫する
- ・参加しやすい日程選び
- ・私が実際参加するとなると自分より年齢層が高そうな人ばかりが集まる場所はあまり参加しづらいので、年齢層が近い人が集まると参加者拡大につながると思う。

Q 4 今後の世田谷区として行う環境の取組に期待することをお書きください。

○記述回答

- ・給水機の設置
 - ・緑を増やす活動
 - ・補助金
 - ・せたがや Pay(事実確認の上修正)などの還元制度が欲しい
 - ・経済支援
 - ・ゴミ処理方法による環境負荷の低減の目視化
 - ・環境問題の自分ごと化が重要だと考える。調査アンケートから経済支援に対する期待が高かったことから、身近な個人の環境対応に対して、せたpei等を利用した経済支援を行うことが有効だと考えた。
 - ・ソーラーパネルなどをアパートなどに付ける
 - ・余剰電気のシェア活動
 - ・環境問題を具体的に、区民に発信できる取り組みをもっと実施してもらいたいです。
 - ・緑を増やす活動
 - ・今日上がった声に向き合っていただき、少しでもリサイクルボックスの設置を増やす取り組みなどをしていただきたいなと思います!特に駒沢は、新しく商業施設などもできて賑わってきましたが、ゴミのポイ捨てなども同時にすごく気になってきたので、リサイクルボックスの設置をご検討いただきたいです!
 - ・土地の広さを利用した大規模な緑地化計画
 - ・エコなものに変えるときの補助金
 - ・色々な取り組みに経済的な支援をしていけると良いのではないかと。また予算が厳しければ、子どもの教育などで身近に環境問題に取り組んでもらえると考える。
 - ・環境に関する行動や取り組みが行いやすくなるような給付金があればいいと思いました。
 - ・先駆的な自治体(財源的余裕、先進的な取り組み、都会という立地)として地方自治体との協働。世田谷区は優秀で真面目な住民が多いと思うので、区民を集めてワークショップを開くだけでいい施策案が出ると思う。
- さらなる環境問題の取り組みについて期待します!
- ・世田谷区はきっと財源があると思うので、お金のない地域にも支援してあげて欲しい
 - ・地方への投資をさらに増やして欲しい。
 - ・政策を施行する
 - ・リサイクル品を収集する場所、譲渡する場所が少ないと感じるので、もっと駅やコンビニとも連携して増えたらいいと感じる
 - ・ゴミの収集システムで分別がやりやすく、楽しくできる集積所のケージの形状の作成、コンポストなどゴミを乾燥させる機械が皆使えるようにする
 - ・ゴミ箱設置
 - ・実現可能な活動を効果的に達成すること。

Q 5 最後に、第 1 回 世田谷版気候若者会議の感想を一言お願いします。

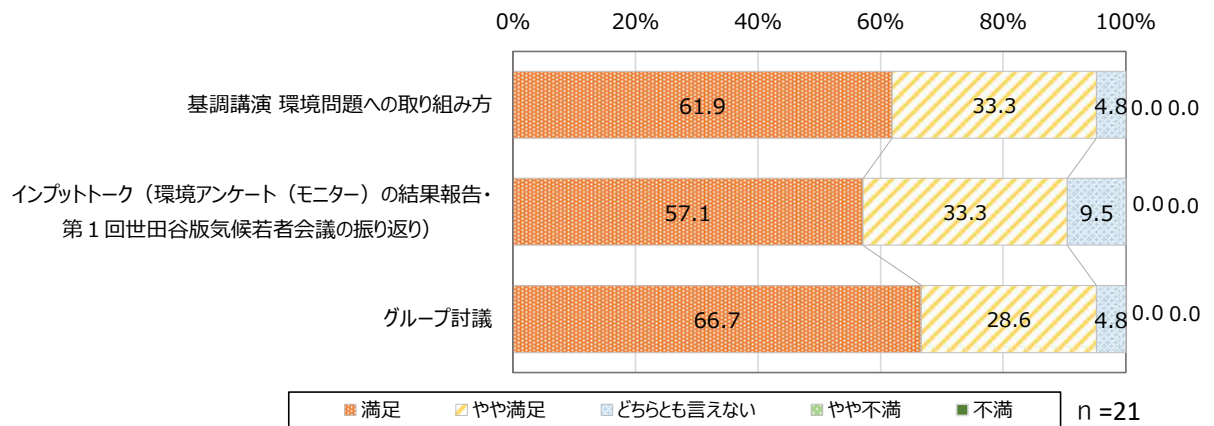
○記述回答

- ・同じ世代の方と話せるのは貴重な経験でした。
- ・グループクイズが面白かったです
- ・今まで複数の環境イベントに参加しているため、内容的には新しいことはなかった。
- ・楽しかったです。勉強になりました！
- ・世代別にまとめるといいかもしれないです。あと、少し長かったような気がします。講義と質疑応答をもっと多くすると楽しいです。
- ・クイズや討論が楽しかったです。
- ・楽しかったです！
- ・深かった
- ・高校生や社会人の方もいて、様々な意見を得られた。多くの人の意見を集約できるコーナーも有意義でした。
- ・知らなかったことが学べたり、知ってることを深く知ることができた
- ・環境問題に関して友達と話し合う機会はないので、他の人の意見が聞けたのは楽しかったです。
- ・様々なアクティビティがありましたが、グループディスカッションが一番楽しく、いい刺激をもらいました。今回は、ありがとうございました！
- ・グループで行うクイズは面白かったです
- ・ありがとうございました！色々学ぶことができ、とても充実した時間でした。ただ、教授や投影いただいた資料を手元でも見れたら、より学びになったと思いました。(資料に書き込みたかったです)プログラムのタイムラインがもう少し明確に提示していただけると良いなと思いました。時間配分が少しきつめだった印象なのと、それが明確に時間が提示されているところは短縮しなきゃという意識が芽生えるので。貴重な機会をありがとうございました！
- ・自分が思い付かないような意見をたくさん聞いて良かった
- ・このような機会がないと環境について考えるときがないので非常にいい機会でした。まず自分が動いてみようと思いました。
- ・私の頭では考えられない意見を知ることができてとても勉強になりました。
- ・気候変動についての講演が興味深かった。また対話自体も楽しむことができた。
- ・ありがとうございました。
- ・色々な方と議論ができるいい企画だと思います
- ・若者の貴重な意見を区の条例や政策提言にぜひ生かして下さい！
- ・大人の方の意見も聞いて、同世代の方の意見も聞いてよかったです
- ・環境への意識が高い同年代の人たちと話せたのは良かった。
- ・区としての取り組みに期待します
- ・たまに SNS で偽情報が流れてくる中で、今の環境問題について改めて知ることができて良かった。
- ・先生のお話も含め、わかりやすく具体的なデータがたくさん見ることができ、有意義な時間でした
- ・とても勉強になりました。
- ・学校とは違う雰囲気、近い年齢層とはいっても少し離れた方も多く、様々な意見を共有できて良かった。

第2回 世田谷版気候若者会議 参加者アンケート〈結果〉

参加者数：21人
 (内訳)
 高校生：4人
 大学生・専門学校生：9人
 会社員・自営業：6人
 パート：1人
 その他・不明：1人

Q1 第2回 世田谷版気候若者会議の満足度を教えてください。



Q 2 様々な立場の人と一緒に環境活動を行うには、どのようなことが必要だと思いますか。
あなたの意見や思いを記入してください。

○記述回答

- ・互いの重要とする指標（経済性、QOL など）を理解し、関わる人の意思を侵食しない行動をすること。
- ・意見や考えの共有をする場があること。
- ・わかりやすいインセンティブ、安全性、信頼性、熱量
- ・安心安全な空間での話し合いの経験
- ・様々な人の背景にある文化や考え方を知る。少なくとも理解しようとしてみる。
- ・活動を行うメリットが必要
- ・様々な意見がある中で、まとめる立場の人がいることなど、役割的環境が必要だと感じた。
- ・会議への参加
- ・他者視点で考える。自分が行うことで他人にどう影響が起こるかを考えることが必要だと思う。
- ・色々な人の立場になってそれぞれが行いやすい取り組みについて考えてみる
- ・お互いの知識量や生活の背景が異なることを踏まえ、意見を否定せず、お互い尊重し合う柔軟な思考が必要だと思います。
- ・少しでも環境について意識しておけばいいなと思いました。
- ・参加する年代層、属性が分かること
- ・お互いが自分のできる範囲内で可能な環境対策を考えること
- ・それぞれの意見や知識に対して、お互いを尊重しながら、積極的に吸収しようという意識
- ・意識的に行動するのではなく（環境活動をしようと思って参加するのではなく）、いつのまにか参加している状態だいいなと思いました。今日「公共交通機関のバスを利用する」という意見が出た際に、「目的地に行くのにバス路線が分断されていて使いづらい」という実感があり、バスに乗るだけで色々な人と環境問題に取り組んでいることになるのに、使いにくいから使わないという行動に至ってしまっているのはもったいないなと感じました。
- ・一人一人の意見を共有できる場が必要だと思います。
- ・一緒に活動する場が必要
- ・率いる人や機関の存在。
- ・普段何気ない行動（ボトル持参など）が環境対策に繋がっていると気付いてもらうこと。

Q 3 今回の会議に参加してみてもの感想をお願いします。

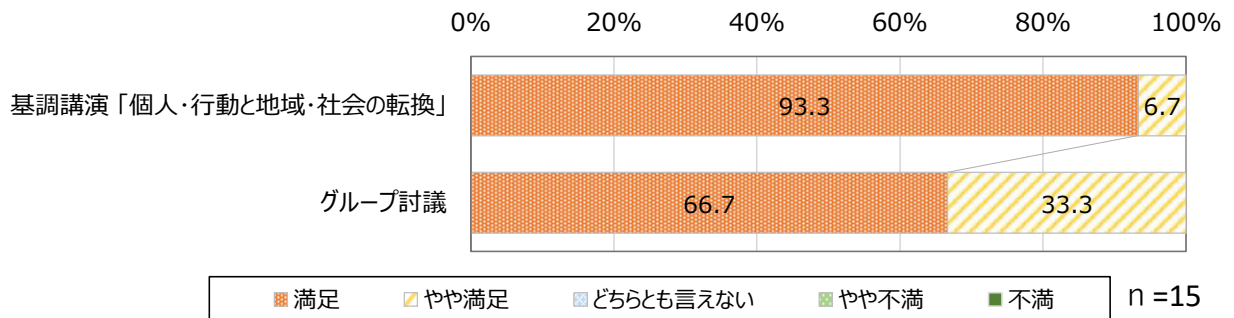
○記述回答

- ・どのグループも具体的な案が出ており、聞き応えがあった
- ・若い世代の意見を聞いてとても貴重な時間を過ごせた。
- ・長めの休憩を一回だけ欲しかったです。
- ・自分では浮かんでこないような発想に触れられ満足した。
- ・かなり頭を使うことができた1日でした。
- ・様々な人の意見を聞くことで、自分にはない考えも知ることができてとてもいい経験になりました。
- ・前回とは違ってとても考えなければならない話題で、意見をまとめるのも難しかった。他のグループの方の意見は全然違って、学びになる。
- ・知らない単語がとびかかっていて、勉強になったが難しかった。
- ・楽しかったです。環境問題について具体的に自分ができていることを考えられました。
- ・ピリカさんのアプリにとっても興味を持った。グループ活動で出たコラボはとても実用しやすいと思う。
- ・立場が違う方の視点を得ることができ、非常に良い機会だと思いました。お子様のいる方の視点などは普段知る機会がないため、バスの利用など興味深い点が多くありました。
- ・内容がとても濃かった会でした。とても難しかったけれど学ぶことが多かったです。
- ・支援策アイデアは具体的な内容が出ていて良かった。
- ・環境問題といってもたくさんの種類があることに気づきました。壮大な問題だなあと、考えるのが大変でしたが、なかなかない機会だったのでとても楽しかったです。
- ・環境にいい具体的な製品名で、エコカイロなどまだ使ったことのない知識を知ることができた。環境に対して自分以上に詳しく調べている方からの意見は大変刺激になった。
- ・おもしろかったです。
- ・ちょっとむずかしかったです。ほかのグループの方の発表を聞いて自分の考えが深まるきっかけとなりました。
- ・考えることが多かった
- ・自分がこうなってほしいな、と思っていたことを他の人にも共感していただけたので、他の人も似たような悩みを持っているんだなと思った
- ・時間がなく、また現実的に考えすぎてしまったことで、討議がきつかった。もう少し柔軟に考えて良かったと反省した。

第3回 世田谷版気候若者会議 参加者アンケート〈結果〉

参加者数：15人
 (内訳)
 高校生：6人
 大学生：4人
 会社員・自営業：5人

Q1 第3回 世田谷版気候若者会議の満足度を教えてください。



Q2 若者（15歳～29歳）が、環境に対してより良い行動をとるために、世田谷区としてはどのようなことをするべきだと思いますか。

○記述回答

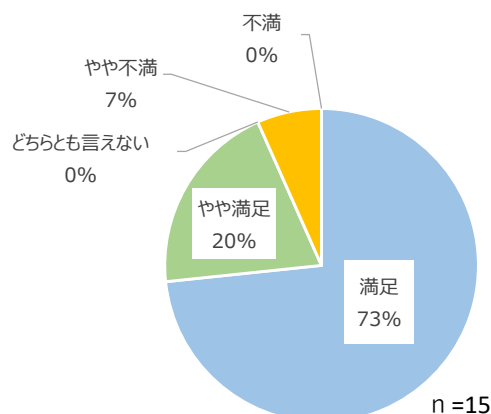
- ・このような機会を増やすことや、若者からの意見を実現していくこと。
- ・環境対策に貢献している企業から商品を購入すること
- ・教育機関を通じての体験学習
- ・環境にかかわる人に景品を渡す
- ・個人でできることをまず確実に遂行する
- ・引き続き気候会議を開催、環境政策課などと一緒にプロジェクトベースでの機会をつくる
- ・若者にもどんな環境アクションを取ればいいかなどの情報を SNS などたくさん PR してほしいです！
- ・学校でチラシを配る、認知さえできれば行動してくれる若者も多いと思う
- ・エコプラザといったリユース施設の数を増やすこと。リユース品を購入したくとも、場所が遠すぎるといった問題がある。
- ・学校、企業、住宅設備の充実や働きかけ（直接得を感じるような動きを通して）
- ・自分事としてとらえアクションをし、知識を知ったままにしないで環境保全行動に繋げることが大切だと感じました。
- ・省エネを促せるよう、区の施設でエアコンのリモコンや電気のスイッチのそばに「〇〇を◎◎時間消すと～が☆☆削減」と書く
- ・社会的に、「環境に良いことは賞賛される」というような潮流が出来れば効果はあると思うので、SNS 等での親しみやすい呼び掛けをする。

Q 3 今回の会議に参加してみたの感想をお願いします。

○記述回答

- ・後半は辛うじて参加できてよかったです。
- ・世田谷区民として暮らしていて感じたことを実際に区長に聞いてもらうことができ、若者の意見を反映させる取り組みがとても良いと思いました。
- ・自分自身にとって関心のある話題に意識が向きがちでしたが、グループの方々とお話することで多角的に課題を見つめ直すことができた。
- ・グループ討議が楽しく自分では思いつかない意見を聞いた
- ・大変楽しかったです。
- ・社会行動からの環境提言は考えたことがなかったので、面白い視点でした
- ・課長に直接お話しする機会と、それに対してのアンサーをいただけたのでとても良かったです
- ・気候変動対策には沢山あるんだと驚きました。世田谷区もすでに対策を打っていることも知れてよかったです。
- ・資料の品質がとても高く、アイデアを得やすかった。
- ・時間がどうしても足りなかった故に、テーマをより精査することが難しかった。
- ・機会を用意して頂きありがとうございました。より年齢層が上がったものや層が絞られたものにまた参加したいです。
- ・提言書まで提出できるという事で良かった取り組みを反映出来るところ。
- ・活発な議論が行えて良かったと思います。他の班の意見でも、私たちのものより実現性の高いものがあり参考になりました。
- ・基調講演が非常に面白かった。

Q 4 第1回～第3回会議の全体としての満足度を5段階でお答えください(すべての会議に出席されていない場合は、出席した回での満足度を回答してください)。



Q 5 Q4 で回答した理由をお答えください。

○記述回答

- ・様々な観点から、環境問題について話し合えたから。
- ・意見交換をしていく中で知らなかった情報など新たなことを知ることができた。
- ・考え方・視野が広がったため。
- ・自分にはない意見を聞けたから
- ・若者同士での交流機会となった
- ・知識面も深まり、同世代での横のつながりもできたため
- ・環境問題についてこんなに考えたのは初めてでした。
- ・資料や基調講演の質の高さ、ここでしか体験できない経験でした。
- ・時間がどうしても足りなかった側面が多かったため。
- ・分かりやすく話しやすいので参加しやすかったです。
- ・基調講演が少しつかみどころがなかったが議論は活発にできたから
- ・自分ではあまり考えていなかったような視点の話を聞くことができたから。

Q 6 世田谷版気候若者会議の運営について、改善点、工夫すべき点、ファシリテーター（会議の進行役）に対する要望などありましたら記入してください。

○記述回答

- ・3 回目の議題が大きな問題になっており、意見統合が難しい
- ・特にありません。楽しかったです。
- ・映像等あると分かりやすいと思います。
- ・もう少し考える時間があると良い気がした。基調講演でもあったように投票形式を導入すればメリハリがついたり俄然やる気が出たりすると思う。

参考②提言書

世田谷区長 殿

世田谷版気候若者会議 参加者一同
(提出日:令和8年3月25日)

若者から世田谷区長への提言書

前文

私たちは、世田谷版気候若者会議に参加した若者として、この提言を自分たちで考え、話し合い、まとめました。

気候変動は、ニュースの中の話ではなく、これからの私たちの暮らしや将来に大きく関わる問題だと感じています。一方で、環境のために何かしたいと思っても、何から始めればよいのか分からなかったり、続けることが難しかったりすることもあります。だからこそ、個人の努力だけに頼るのではなく、自然と行動しやすくなる仕組みや、みんなで取り組める環境が必要だと考えました。

この若者会議では、専門家のお話を聞き、参加者どうしで意見を出し合いながら、「自分たちにできること」と「社会や行政に求めたいこと」の両方を考えてきました。その中で、若者だからこそ気づけること、生活の中で感じている不便さ、こうだったらもっと行動しやすいのにとすることを、できるだけ率直に提言に込めました。

この提言は、完成された答えではなく、世田谷の未来をよりよくしていくための、私たちなりの一歩です。若者の意見として受け止めていただき、これからの世田谷区の気候変動対策や、若者の行動を後押しする仕組みづくりに生かしていただけたらうれしいです。

要 旨

世田谷区は「2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロ」を目標として環境施策を推進している。若者世代が気候変動問題を「自分ごと」として捉え、行政や社会に向けた提言づくりを行うことを目的として「世田谷版気候若者会議」が開催された。そこで私たちは、専門家からの学びと対話を踏まえ、マイアクションを後押しする支援の提言7項目と、気候変動対策への提言5項目の計12項目を区長へ提言する。

A マイアクションのために必要な支援の提言

Welcome Place:

駅から立ち寄りやすい場所で、環境に関する展示・体験を行う

水と氷で地球を冷やそう:

区施設等への給水・給氷スポット導入で、マイボトル利用と熱中症対策を後押しする
電子決済と環境負荷を組み合わせたアプリ:

消費と環境負荷の見える化とポイント還元で選択を後押しする

(ふるさと)環境納税:

環境団体への投資・寄付に応じた控除等で、資金と参加を呼び込む
環境活動支援のためのまとめサイトづくり:

環境団体・企業・活動の情報を一括で見られるポータルを整備する
自分にリターン、企業・地区別環境保全大会:

企業・地区対抗の仕組みで、参加のきっかけと継続を生む

コラボで環境意識を高めよう:

キャラクター等との協働で認知を高め、参加を楽しくする

B 気候変動対策への提言

サーキュラーエコノミー:

修理・長期利用が当たり前となる仕組みへの転換

増やすと減らすを住宅で実現:

再エネ導入(増やす)と省エネ・断熱(減らす)の同時推進

世田谷区エコアンバサダーU15:

学校・企業・行政が連携した「担い手」育成

エコ Pay(せたがや Pay 連携):

日常のエコ行動を「応援」するポイント設計

食・教育・ゼロエミッション住宅:

屋上菜園・空き家活用・地域連携で「食」から脱炭素を体験する

本提言は、個人の努力に依存しすぎず、誰もが自然に参加できる制度設計を重視する。

また、金銭的メリットに限らない「褒められる・認められる」「応援されている」という感覚を取り入れ、行動変容を後押しする。

1. 提言の背景

1-1. 気候危機と自治体の役割

気候変動は、猛暑・豪雨などの形で生活に影響を与え、将来世代ほど影響が大きい課題である。自治体は、地域の暮らしと産業に最も近い主体として、制度・公共調達・教育・地域連携を通じて、脱炭素型の暮らしへ移行する「しくみ」を整える役割を担う。

1-2. 若者の参画が必要な理由

2050年に社会の中心的存在となる若者世代は、将来影響を最も長く受ける当事者である。同時に、学校・就職・子育てなど人生の転換点にあり、生活や価値観が変わりやすい時期でもある。若者の声を反映した政策は、将来にわたり持続可能であるだけでなく、同世代への波及も期待できる。

2. 世田谷版気候若者会議の概要

2-1. 会議の位置づけ

気候市民会議とは、無作為に選ばれた市民が複数回の会議に参加し、専門家の話を聞きながら市民同士での話し合いを重ね、気候変動に関する対策や取組を検討する手法である。世田谷版気候若者会議は、この考え方を踏まえ、若者世代を対象として開催された。

2-2. 開催日程・テーマ

全3回の会議が開催された。

第1回:令和7年11月16日

「マイアクションを考える」

第2回:令和7年12月7日

「『わたしたち』が気候変動を止めるためにはどうしたらいいか考える」

→提言 A [マイアクションのために必要な支援の提言](#)

第3回:令和8年1月25日

「わたしたちの未来のための気候変動対策を考える」

→提言 B [気候変動対策への提言](#)

2-3. 参加者募集・参加状況

参加者は、無作為抽出による環境アンケート(15歳~29歳の3,000人を抽出)等、複数の方法で募集された。参加者数は、第1回28人、第2回21人、第3回15人であり、学齢・職業の多様性を確保しつつ運営された。

3. 提言作成の考え方(原則)

3-1. 行動変容は「負担」ではなく「後押し」で起こす

環境負荷の軽減行動を促す際、金銭的な得だけでなく、人から褒められる・認められることも大きな動機づけになり得る。また、ポイント付与など少額でも「応援されている」という感覚が行動を後押しする。罰則だけでは社会が窮屈になるため、基本は「損にならない仕組み」を整え、緩い誘導として「得」を用いる。

3-2. 多様な若者への届きやすさを前提とする

第3回では、時間・費用・情報・移動などが障害となっている点と、障害を下げる工夫を整理して提言づくりを行った。したがって、各提言には「届きやすさ」の観点(時間・お金・移動・言語/情報・対面負荷)を組み込み、参加できない人をつくらない設計とする。

3-3. 世代・立場の違いを踏まえた合意形成

若者だけで政策を議論すると高齢者等の他世代からの反対を受ける可能性があるため、政策を考えるうえで高齢者の視点からのチェックを組み込むことが必要である。よって、モデル事業→評価→改善→拡大のサイクルと、説明可能性(納得感)を重視する。

4. 区長へのお願い(横断の要請)

提言5項目は分野が異なるが、実装段階では共通して以下を要請する。

- 1) 小さく試行し、評価し、改善して拡大する「試行型」で実施すること。
- 2) 実施後も若者が改善提案できる継続的な参画の場を確保すること。
- 3) 施策の利用者にとっての「手続き負担」を減らし、情報を分かりやすく届けること。
- 4) 取組の成果(CO₂削減や参加者数など)を可視化し、区民と共有すること。

5. 提言の詳細

A マイアクションのために必要な支援の提言

提言1 Welcome Place(誰もが立ち寄れる環境の学び・出会いの場)

5-1-1. ねらい(望ましい状態)

環境に興味関心が薄い層を含め、日常の動線上で『ふらっと立ち寄れる』入口を設け、行動のきっかけを増やす。

5-1-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

駅から立ち寄りやすい場所を提供し、展示だけでなくクイズ形式等で参加しやすくする。

環境への興味関心が薄い人でも、立ち寄ることで考えるきっかけを得られるようにする。

5-1-3. 主な実施主体(想定)

世田谷区

地域団体

5-1-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

モデル拠点を1~2か所(駅近・区施設等)で試行し、展示+参加型(クイズ等)のコンテンツを実装する。

学校・地域団体・企業との持ち回り企画で、常設+定期イベントを組み合わせる。

5-1-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

5-1-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

環境に配慮した行動の増加

環境イベント開催の増加

より多くの人に伝える工夫の促進

提言 2 水と氷で地球を冷やそう(給水・冷却支援でマイボトルを増やす)

5-2-1. ねらい(望ましい状態)

マイボトルを当たり前にし、ペットボトルごみの削減と熱中症対策を同時に進める。

5-2-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

区施設に給水等の仕組みを導入する。

アプリ等で利用回数を管理し、特定の人が大量利用しない工夫を行う。

マイボトル利用を増やし、熱中症対策にも資する。

5-2-3. 主な実施主体(想定)

世田谷区・学校/教育機関・企業/お店

5-2-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

区施設から段階的に設置し、利用回数管理等の運用ルールを整備する。

併せて、熱中症予防とマイボトル推奨の情報掲示を行う。

5-2-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

お金:無料または低負担を前提としつつ、段階的導入(少しずつ広める)で運用費を調整する。
時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

5-2-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

ごみの減少
熱中症予防の啓発
経済的支援
自販機利用の減少

提言 3 電子決済と環境負荷を組み合わせたアプリ(消費と環境負荷の見える化+ポイント還元)

5-3-1. ねらい(望ましい状態)

家計(節約)と環境負荷を結びつけ、日常の買い物から無理なく行動変容を促す。

5-3-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

消費金額と商品の環境負荷を可視化し、評価に応じてポイント還元を行う。
節約意識と環境意識を結びつけ、意識改革を後押しする。

5-3-3. 主な実施主体(想定)

世田谷区・学校/教育機関・企業/お店・地域団体・若者自身

5-3-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

電子決済データ(購入品目等)と環境負荷指標を紐づけ、わかりやすい表示とポイント設計を行う。
学校・大学・企業での利用を入口に周知し、家族・友人への紹介で広げる導線を用意する。

5-3-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

5-3-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

節約と当事者意識の向上

提言 4 (ふるさと)環境納税(寄付・投資に応じた税控除で活動資金を循環させる)

5-4-1. ねらい(望ましい状態)

環境活動への資金循環をつくり、関心はあるが一步踏み出せない層の行動を後押しする。

5-4-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

環境負担の見える化等に取り組む団体への投資/寄付の額に応じ、区へ支払う税の控除につなげる。

実質的に税が『区→団体』へ移動する仕組みを設計する。

税制という身近な入口から、環境への関心と一步目を生み出す。

5-4-3. 主な実施主体(想定)

世田谷区

若者自身

5-4-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

区として制度設計(対象団体の要件、透明性、控除の仕組み)を整理し、試行枠を設ける。

寄付先の活動成果が見える化し、納得感と継続寄付を高める。

5-4-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

5-4-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

環境団体への自発的投資の増加

税制への納得感向上

提言 5 環境活動支援のためのまとめサイトづくり(信頼できる情報の一括提供)

5-5-1. ねらい(望ましい状態)

『情報が分散していて参加しにくい』障害を下げ、活動参加のハードルを下げる。

5-5-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

環境団体・企業・活動情報を一括で見られるポータルサイトを整備する。

『興味→活動参加』への壁をなくし、気軽に参加できる情報を精査して提示する。

オンラインも含め、需要のすき間に応える種類の多さを確保する。

5-5-3. 主な実施主体(想定)

世田谷区・学校/教育機関・企業/お店・地域団体

5-5-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

ポータルサイトで『イベント』『ボランティア』『学び』等をカテゴリ化し、検索性と信頼性(情報精査)を担保する。

学生運営・参加者発信等も取り入れ、更新とコミュニティ形成につなげる。

5-5-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

言語:多言語対応を段階的に拡充する。

時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

5-5-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

参加人数の増加

コミュニティ形成

地域活性化

提言 6 自分にリターン:企業・地区別 環境保全大会(メリット提示で参加のきっかけをつくる)

5-6-1. ねらい(望ましい状態)

関心が薄い層に対しても、メリットと楽しさを入口に参加のきっかけをつくる。

5-6-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

期間を決め、地区・企業ごとに応募できる仕組みを設ける。

省エネ・ごみ等の部門別に削減率で評価し、個人にも企業にも景品や評価につなげる。

スポンサー等を組み込み、関心が薄い層へ『メリット』を提示して参加を促す。

5-6-3. 主な実施主体(想定)

世田谷区・学校/教育機関・企業/お店・地域団体・若者自身

5-6-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

企業・地区単位で参加できる仕組みとし、削減率等の評価指標を明確化する。

スポンサー等の協力を得て、景品・評価(PR)により参加インセンティブを設計する。

5-6-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

5-6-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

環境への関心形成

取組の外部 PR

ごみ処理費・CO2 の削減

提言 7 コラボで環境意識を高めよう(キャラクター等との連携で認知→参加へ)

5-7-1. ねらい(望ましい状態)

興味のない層に届く広告・特典設計で、認知から参加への導線をつくる。

5-7-2. 何をしてほしい(制度・仕組みの要請)

環境とキャラクター等のコラボ広告(バス・電車等)で認知率を高める。

バス乗車回数の特典(地域で使える商品券等)や、環境活動のポイント制を組み合わせる。

環境イベント参加特典をコラボグッズにする等、第一歩を後押しする。

5-7-3. 主な実施主体(想定)

世田谷区・企業/お店

5-7-4. どうやって実現する(具体の仕組み・実施ステップ案)

交通広告等で認知を広げ、参加特典(商品券・コラボグッズ等)を設計する。

対面参加が難しい層には、映像視聴等の形も含めた入口を用意する。

5-7-5. 届きやすさ(多様な若者への配慮)

対面:人が多い場が苦手な人にはオンライン等の参加余地を用意する。

時間:短時間で参加できるメニュー(通学・通勤動線上、オンライン等)を用意する。

5-7-6. 期待される効果(気候変動対策+共便益)

環境を意識した生活が自然になる

B 気候変動対策への提言

提言8 サーキュラーエコノミー：修理・長期利用が当たり前となる仕組み

5-8-1. ねらい(望ましい状態)

家電等が「買い替えた方が安い」状況となり、修理文化が衰退している。大量消費・大量生産が続く限り、資源消費と廃棄が加速し、ごみ削減も進みにくい。そこで、製品を長く使うことが自然に選ばれる環境を整え、循環型社会へ転換する。

5-8-2. 区長への要請(制度・仕組み)

- A) 修理して繰り返し長く使える製品を製造する企業を優遇する(税制等の支援を含む)。
- B) 修理に関する技術者を育成し、国家資格や企業認定マーク等の制度を整備する。
- C) 5～10年で壊れる設計・文化に対し、製品を5～10年契約にする等、供給側・消費側双方に利点がある長期利用モデルを導入する。

5-8-3. 実現のための具体策(案)

1) 「修理・長寿命」評価の仕組み

区内事業者を対象に、修理可能性(部品提供年数、修理窓口、保証/サブスクの有無など)を評価する仕組みを設け、認定マークとして可視化する。
認定企業を区の広報やイベント、公共施設で優先的に紹介し、販路・信頼を支援する。

2) 修理人材の育成・マッチング

技術者の学び直し(講座)と、企業・店舗とのマッチングを支援する。
資格制度の整備は国制度を要するが、区としてモデル認定(修理人材バンク等)を先行し、国への提案につなげる。

3) 長期利用モデルの試行

区の公共調達(備品・家電等)で長期保証・修理優先・契約型の導入を試行する。
事業者には、長期契約型のビジネスモデル(リース・サブスク・下取り・修理込み)を促し、区が広報・認定で後押しする。

5-8-4. 届きやすさの工夫(案)

時間：修理相談の予約・受付をオンライン化し、駅近・区施設での相談日を設ける。
お金：修理費の一部補助や、認定事業者の割引クーポンを検討する。
情報：認定マークの意味を簡潔に示し、比較しやすい一覧を提供する。

提言9 増やすと減らすを住宅で実現:再エネ導入+断熱改修

5-9-1. ねらい(望ましい状態)

住宅はエネルギー消費の大きい領域であり、再生可能エネルギーの導入(増やす)と、省エネ・断熱(減らす)を同時に進める必要がある。また、空き家問題が増加する中、断熱性を高めることでエネルギー効率を向上させ、建物を長く使えるようにすることが重要である。

5-9-2. 区長への要請(制度・仕組み)

- A) 太陽光パネル設置の補助を行う。
- B) 断熱性能を上げるための補助を行う。
- C) 太陽光パネル設置が難しかった場所(窓・外壁等)も含め、導入可能性を検討する(例:ペロブスカイト太陽電池)。

5-9-3. 実現のための具体策(案)

1) ワンストップ相談・診断

区が窓口となり、「我が家でできること」(太陽光・断熱・給湯・窓改修等)の簡易診断を提供する。見積比較や施工事業者の紹介(登録制)までつなげ、情報の非対称性を縮小する。

2) 補助制度の設計(わかりやすさ重視)

補助は、申請が複雑だと利用されにくい。必要書類の簡素化、オンライン申請、モデルケース(費用・削減効果)の提示を行う。

低所得世帯・賃貸・集合住宅など、導入障壁が高い層へは上乘せ支援や別メニューを設ける。

3) 「設置困難箇所」への技術実証

ペロブスカイト太陽電池等、軽量・柔軟な技術の実証を、区有施設やモデル住宅で行い、導入ガイドを作成する。

4) 空き家・リフォームと連動

空き家活用・改修支援の制度と、断熱改修補助を連動させ、利活用と省エネを同時に促す。

5-9-4. 届きやすさの工夫(案)

お金: 初期費用負担が最大の壁である。分割・リース、金融機関との連携、補助の前払い/立替え等を検討する。

情報: 削減効果(光熱費・CO₂)を「見える化」し、導入後のメリットを実感できる仕組みを付ける。

提言10 世田谷区エコアンバサダーU15:担い手を育てる環境教育の刷新

5-10-1. ねらい(望ましい状態)

従来とは違う「インパクトのある環境教育」を実現し、学びを行動につなげる担い手を育成する。U15(主に小中学生)段階で、地域の企業・団体とつながり、継続的に参加できる仕組みが必要である。

5-10-2. 区長への要請(制度・仕組み)

- A) 学校が企業と連携し、環境問題に関するプロジェクトやイベントを開催できる仕組みを整える。
- B) 行政として、学生にインパクトのある環境教育を実施する。
- C) 「世田谷区エコアンバサダーU15」を制度化する。
- D) 環境教育に携わる団体・企業への補助(協働の原資)を用意する。

5-10-3. 実現のための具体策(案)

1) 授業×課外プロジェクトのセット化

第三者の専門家が小中学校で課外学習の授業を実施し、授業後も生徒が自由に参加できる環境活動プロジェクト(または環境ボランティア)を設け、質の高い環境教育を実現する。
学校内に閉じず、地域のNPO、企業、大学等とつながる導線をつくる。

2) アンバサダー制度(承認と継続性)

認定(バッジ・カード等)と発信機会(区のWeb/SNS、イベントでの発表)を付与し、継続の動機づけとする。
活動は「競争」より「協働」を重視し、チーム単位の認定や、達成の見える化を行う。

3) 実施校・連携先の拡大

まずはモデル校で開始し、教材・運営手順・安全管理の標準化を行ったうえで拡大する。
企業・団体側の負担を下げるため、区がマッチングとコーディネートを担う。

5-10-4. 届きやすさの工夫(案)

時間:放課後・休日だけでなく、授業内でも完結するメニューを用意する。
移動:学校内や近隣で実施できる活動を基本とし、遠方活動は希望制とする。
対面:発表が苦手な生徒にも、制作・記録・運営など多様な役割を用意する。

提言11 エコ Pay(せたがや Pay 連携):日常のエコ行動を「応援」するポイント設計

5-11-1. ねらい(望ましい状態)

日常生活で環境へ配慮する行動をとれば、インパクトが大きい。例えば、世田谷区民 92 万人の 10% が 1 本ストローを断れば 9.2 万本削減できる。小さな行動を積み重ねやすくするため、エコ行動を「応援」する仕組みを設計する。

5-11-2. 区長への要請(制度・仕組み)

- A) せたがや Pay に連動できる仕組みにする(ポイント相互交換を含む)。
- B) 企業・店舗側がせたがや Pay を使えるよう参画を促す。
- C) イベント参加、サステナブルグッズ購入、ストロー辞退、エコバッグ使用等でポイントが貯まる仕組みを整える。
- D) 環境団体・NPO の情報を一括で見られるポータルサイトを設立し、イベントやボランティア募集情報を掲載する。

5-11-3. 実現のための具体策(案)

1) 対象行動の設計(公平性と検証可能性)

「誰でもできる」行動(ストロー辞退、リユース容器利用等)と、「参加が必要」な行動(イベント・ボランティア)を分け、参加障壁を下げる。

実証として、区主催・協力イベントから開始し、レシート連携や QR チェックイン等で不正防止を図る。

2) 「応援」の体験設計(承認の仕組み)

ポイントは単なる割引ではなく、「あなたの行動が地域をよくした」というフィードバック(CO₂ やごみ削減の見える化)とセットで提供する。

少額でも「応援されている感覚」が行動を後押しするという学びを反映し、継続しやすい設計とする。

3) 広報・参加の入口の多様化

環境に興味のない層にも届くよう、キャラクター等とのコラボ広告(交通機関等)や、バス乗車回数等の特典設計も組み合わせる。

日本語が得意でない人には、海外で人気の作品等とのコラボを含めるなど、多言語・文化的アクセシビリティを工夫する。

人が多い場や対面が苦手な人には、映像視聴等の形式を入口とし、その後オンラインで参加・購入に進める導線を用意する。

5-11-4. 届きやすさの工夫(案)

時間:通勤通学の動線(駅・商店街)で完結する参加方法を用意する。

お金:ポイントは「追加負担」を求めず、既存の購買や行動に上乗せで付与する。

情報:ポータルで「今日できること」を提示し、参加ハードルを下げる。

提言12 食・教育・ゼロエミッション住宅:屋上菜園×空き家活用×地域連携

5-12-1. ねらい(望ましい状態)

食料(肉・野菜など)を生産する過程でも CO₂ が排出される。まずは世田谷区でとれた野菜などを食べることを通じ、環境にやさしい「食」について考えるきっかけをつくる。同時に、空き家の屋上等の未利用空間を活用し、教育・地域経済・脱炭素を一体で進める。

5-12-2. 区長への要請(制度・仕組み)

- A) 行政・企業に対し、ゼロエミッション建築、屋上の貸し出し、屋上菜園を進める。
- B) 学校・教育機関、地域団体に対し、利用者募集(イベント・体験)や植樹等の参加機会を拡充する。
- C) 行政に対し、収益の配分制度(海の植藻・山の植樹等)を設計する。
- D) アプリで PR し、世田谷区にゆかりのあるキャラクター等を活用し、区民にポイント加算(せたがや Pay 等)を行う。

5-12-3. 実現のための具体策(案)

1) 屋上菜園・貸出農場のモデル化

空き家の屋上を活用し、貸し出し農場や野菜を作れるスペースを設ける(食・教育・空き家活用)。企業ビル・公共施設・集合住宅等も対象とし、安全管理(荷重・転落防止・水管理)を標準化する。

2) 教育・体験プログラムの実装

学校授業・探究学習と連動し、栽培→調理→食べる→振り返るまでを体験する。

植樹・植藻などの自然再生と組み合わせ、「都市の消費」と「海・山の吸収源」をつなぐ学びとする。

3) 収益配分と地域連携

菜園利用料やイベント参加費等の一部を、海の植藻・山の植樹等に配分する制度を設計し、参加者が貢献を実感できる形にする。

近隣自治体や生産者と連携し、地産地消の流通や学習機会を拡充する。

4) 発信と参加の入口

若者にも届く形で発信することを重視し、アプリPRやキャラクター活用で「楽しさ」を入口にする。

参加者にはポイント加算(せたがや Pay 等)を行い、継続参加を後押しする。

5-12-4. 届きやすさの工夫(案)

移動:身近な拠点(学校・公共施設・駅近ビル等)に分散配置する。

時間:短時間の参加メニュー(30分の作業、週末のみ等)を用意する。

対面:一人参加・家族参加・オンライン学習など複数の参加形態を用意する。

6. 結び

以上の提言は、若者が学び、議論し、生活の中での実践(マイアクション)を重ねた上で、行政と社会へ向けてまとめたものである。世田谷区が目標とする脱炭素社会の実現に向け、区長のリーダーシップの下で、試行と改善を繰り返しながら実装されることを強く望む。

以上

**世田谷版気候若者会議
実施報告書**

発行日：令和8年3月

発行元：世田谷区 環境政策部 環境政策課

〒158-0094 世田谷区玉川 1-20-1 二子玉川分庁舎

TEL：03-6432-7131